

教育民生委員会 行政視察報告

5月23日から25日にかけて、委員8名、議長、事務局随行者名、執行部2名で、北海道千歳市、北海道登別市のほりべつ文化交流館カント・レラ、北海道夕張市を視察してまいりました。

北海道千歳市

子育て支援センターの取組について 子育てコンシェルジュ事業について

千歳市は、平成26年度から「子育てするなら千歳市」の政策を推進し、人口増加や子育て世代の移住・定住促進につながる、子育て世代に選ばれるまちづくりを目指しています。

その施策の一つとして、子育て家庭が孤立することなく、安心して子育てができるよう、子育て相談や親子同士の交流の場として、市内12か所に子育て支援センターを設けています。

また、子育てコンシェルジュ事業では、子育てコンシェルジュと呼ばれる専門職員が、子育てに関する全ての相談に対応することで、安心して相談できる環境づくりを行っています。一般的な利用者支援事業に加え、傾聴、協働、対話等の訪問型の利用者支援を行う点が、子育てコンシェルジュ事業の大きな特徴であるとのことでした。

今後の加賀市の子育て支援において、大変参考となる内容でありました。



北海道千歳市

北海道登別市

のほりべつ文化交流館カント・レラ 廃校の利用について

のほりべつ文化交流館カント・レラは、廃校となった中学校を、地域発展の核となる公共施設として利用してほしいという地域住民からの強い要望を受け、平成19年度より利用が開始されています。

1階は、登別市内の遺跡から出土した土器や石器などを保管する博物館施設、2階・3階は、絵画などの展示室や会議室として利用可能なスペースとなっています。

利用者からは、自分たちが住んでいる土地に遺跡があることを初めて知り、興

味を持ったとの感想が多く寄せられており、このように土地に対する思いが強まることは地域活性化につながるため、まちづくりの重要な要素と捉えているとのことでした。

この施設のほかにも、登別市ネイチャーセンターふおれすと鉱山も廃校となった小学校を利用した施設であり、青少年の自然体験活動の推進、自然環境に対する意識の高揚を図ることを目的とした施設となっています。

廃校利用の課題としては、利用者数の維持と施設の維持管理が挙げられ、PRの強化等を行う予定ではあるが、既存施設との統合や、大規模改修等も検討しているとのことでした。



のほりべつ文化交流館カント・レラ

北海道夕張市

夕張高校魅力化プロジェクトについて

夕張市では、市内唯一の高等学校である夕張高校の生徒数が減少しており、廃校となった場合のまちの将来的な影響を

考え、平成28年度の財政再生計画の抜本の見直しにおいて「夕張高校魅力化プロジェクト」を主要施策に位置づけました。

これまでに、資格取得の半額助成や部活動支援等の予算化、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの実施等の実績があります。また、公設塾「夕張学舎キセキノ」の設置・運営や海外短期留学の実施など、生徒に対して様々な支援を行っています。

しかし、現在も生徒数の減少が続いており、地元進学率の向上はもとより、市外からの生徒の受け入れが急務となっているとのことでした。

加賀市においても生徒数の減少は大きな課題となっているため、高校魅力化の必要性を再認識する内容でありました。



北海道夕張市

視察を終えて

今後、視察した事例を参考にしながら、加賀市が抱える課題の解決に向け、調査・研究を進めていきたいと思っております。